

## 平成21年度普通会計決算（見込）について〔概況〕

### 1 決算規模

歳入歳出とも5年ぶりに前年度決算額を上回った。

・歳入	810,448百万円	対前年度	59,599百万円	比	7.9%
・歳出	796,522百万円	対前年度	59,424百万円	比	8.1%

### 2 決算収支

実質収支は2年連続で前年度を上回り、単年度収支も2年連続の黒字となった。

・実質収支	6,333百万円	（前年度	5,958百万円）
・単年度収支	375百万円	（前年度	788百万円）

### 3 特徴

県税収入は景気悪化による法人二税の減などにより2年連続の減

自主財源の大宗を占める県税収入については、景気悪化及び地方法人特別税の導入による法人二税の減などにより、前年度比 20.8%、56,459百万円となり、2年連続で減少した。

一方、地方譲与税は、地方法人特別譲与税の創設により、前年度比 +10,268百万円と増加、地方交付税も同 +10,090百万円と2年連続で増加した。

なお、地方交付税に臨時財政対策債を加えた額は、前年度比 +35,817百万円と増加したが、県税収入の落ち込みをカバーできなかった。

県債については、臨時財政対策債の大幅増に伴い、発行額が増加した。

普通建設事業費は3年ぶりに増加  
高齢化の進展などにより医療福祉関係経費は引き続き増加

普通建設事業費については、国の経済対策に伴い、前年度比 +15.5%と3年ぶりに増加した。

補助費等のうち医療福祉関係経費については、医療費公費負担や介護保険関係経費の増等により、引き続き増加している。

経常収支比率は依然として高水準で推移し、財政の硬直化が顕著

経常収支比率は前年度比 0.7ポイントの98.1%となったものの、過去3番目に高い水準となっている。